

第26回リハ工学カンファレンス

実施日：2011年8月24日～26日

主催：日本リハビリテーション工学協会

場所：大阪市中央公会堂

世話人：古井 透（実行委員長）

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、障害を持った当事者の生活を豊かに実現するための工学的支援技術や、リハビリテーションにおいて利用される工学・技術の問題について、エンジニア・当事者・リハビリテーションの現場や障害者教育の現場で働くスタッフなどが、互いに理解しうる言葉・方法で討論し、障害者のリハビリテーションに有効な工学・技術および情報に関するネットワークを作り利用することを目的としている。リハ工学カンファレンスは一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の主要な事業の1つで、年1回程度の頻度で、日本各地で研究発表および情報交換を目的とした大会を開催している。平成23年までに26回開催され、通常は8月末に開催される。カンファレンスは通常の学会とは異なり、学術発表よりも当事者に役立つような話題が歓迎され、気軽な服装での参加が推奨されてきた。本学が事務局となり8月23日から24日にかけて、大阪市中央公会堂（写真）にて開催されたカンファレンスへの総参加者は関係者や学生ボランティアを含め632名であった。しかし、これには一般公開されたプログラムである公開講座や福祉機器展示のみの参加は含んでいない。また、外国からの参加者は6人（米国2名、韓国4名）であった。今回のカンファレンスでは、アクセスの利便性を活かし、特別講演のほか、機器展示、当事者セッション等を『一般公開講座』とした。今回のカンファレンスでは特

に、学生セッションをもうけるとともに、参加費等についても例年と同様に学生が参加しやすいよう配慮した。国際セッションでは海外からの発表演題を募集し3セッション11演題が英語で発表された。情報保障として主会場を中心に要約筆記を実施した。研究発表のほか、初日には、ご自身も障害当事者である元RESNA（北米リハ工学協会）会長ローリー・ターパー氏による国際セッション特別講演ではじまった。パネルディスカッション「あいのリハ工学」ではニーズとシーズの出会いをさぐり、アンドロイドを哲学的課題へと昇華させた石黒浩氏の基調講演、福祉機器展示、福祉機器コンテスト作品展示を行なった。本カンファレンスへの参加によって、(社)リハビリテーション医学会近畿地方会、(社)日本理学療法士協会、(社)日本作業療法士協会の各会員が生涯学習システムの単位取得ができるよう、期間中2日目の夜に和歌山医科大学 田島文博氏による単位認定講座を実施した。最終日午後には主会場を一般公開とした。本学の上好 昭孝 学長による大会長講演「オプティマルヘルスを目指して」を実施した。続いて、尾上浩二氏（内閣府 障害者制度改革総合福祉部会副部会長 DPI 日本会議事務局長）を招き、「障害者制度改革とリハビリテーション工学への期待」と題した特別講演とその後3人の障害当事者からの指定発言・討論によって幕を閉じた。障害当事者アカデミズムに始まり障害当事者アクティビズムで終わった3日間の大会であった。



教職員自主研修支援
「大学・専修学校等オープン講座」

主 催：大阪府教育センター

講 師：岸本 眞

実施日：2011年8月1日 1限

テーマ：できる喜びを味わう運動学習
－発生論的運動学－

学校体育の現場において、跳び箱が跳べない、鉄棒の逆上がりができないなどの不器用な子どもたちの運動指導に際して、筋力や持久力や運動速度などの量的に数値化できる体力を強化する指導はあるが、自分の身体に生まれるべき志向性や動きの感覚（動感）が芽生えていない子どもたちに対する運動指導はあまり知られていない。

本講座では、このことについての理解を深めるために、入門的に運動発達研究の近年約100年の歴史の変遷を俯瞰しつつ、運動冗長性問題（ベルンシュタイン問題）を基とした運動調節機構の概説と共に、最新のエポックである、発達途上に見られる general movement (GM)、発達のU字現象、また rocking 運動の運動発達学的意義について解説した。

更に、岸本の研究領域である発生論的運動学を基にした子どもの運動に対するためらいや恐怖を乗り越えて、また運動のコツが芽生えるための指導方法について、現象学的観点から分析（動感分析）する視点を紹介し、共感をもって運動発生を促していく方法論のあり方について事例を提示しつつ提案した。

最後に以下の項目をまとめとした。

- ①子どもの内面の動感世界から探る。
- ②科学的な運動分析と指導を超えて、動きを「生まれ」させる。
- ③できない思いを共感しつつ指導する。

④できた喜びが次の挑戦へ向かう。

⑤運動モルフォロジー（現象学的形態学）としての身体知の発生構造（発生論的運動学）を理解する。

実施日：2011年8月1日 2限

テーマ：障がい児への支援策について

脳性麻痺をはじめとする障がい児たちの誕生から現在までの、医学的、社会的、教育的、家庭的環境が、どのように彼らの発達に影響しているかをスライドを通じて外観しつつ、そこで求められていくコミュニケーション能力や自己決定力がどのように養われていくべきかを、何例かのエピソードを通じて紹介しつつ、彼らを支援をする教員としてのあり方を再考する機会となることを願っての講演とした。

また障がい児たちへの支援は、特定職種による包括的な主導ではなく、彼らを取り巻く支援者たちが、共通の支援理念（多様性と遍在性）を基にした相互の資源の carry over を可能にすることの必要性を、岸本が実践してきた、地域生活支援者らのネットワーク形成の事例を紹介しつつ、以下のようにまとめた。

- ①貝塚の地元で大人になった障がい児たちの辿ってきた地域生活の実情を理解した上での障がい者福祉作業所での10数年にわたる具体的支援策の実践例とその成果について。
- ②重症心身障害者の地域生活支援に求められる他職種間に共通した医療、介護技術の勉強会と各種講習会、研修会の紹介、ならびにそのメンバーと実施したアメリカ、サンフランシスコ湾周囲地区の福祉施設の視察紹介。
- ③貝塚市で実施されている障がい児体操教室の紹介とその意義について。
- ④障がい児たちを支援している教職員に求められる大きな役割と意義について。

第6回高校生のための 大学フェア大阪 2011

実施日：2011年7月18日

主催：大学コンソーシアム大阪

場所：大阪府教育センター

テーマ：コミュニケーションロボットから
人と人との絆を考える

講師：木村秀生

1. コミュニケーションの支援とは

言語聴覚士とは、「話す」「聞く」といったコミュニケーションや、「食べる」「飲み込む」といった嚥下（えんげ）に関わる機能・能力に障がいのある人が、コミュニケーションや食事の楽しみを取り戻せるようサポートする仕事です。先天的な障がいがある人のほか、脳卒中や交通事故などの後天的な障がいのある人も対象になります。乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象にします。なかでもコミュニケーションについては、その人自身が持つ力を、自ら進んで、のびのびと発揮できるよう、適した環境を作る事がテーマのひとつです。その環境作りの為の「Muu（む〜）」と名づけられたロボットと子どもたちとのコミュニケーションの例を紹介します。

2. ロボット「Muu」と子どもたち

一般的にロボットと言えば、ヒューマノイド（人型）や、便利で高機能なものをイメージすると思います。ところが、Muuのコンセプトは「役に立たない」「思わず関わりたくなる」なのです。外見は丸く、ぷよぷよしていて、よたよたはうように動きます。Muuと出会った子どもたちは、自閉症や知的障がいといったコミュニケーション上のハンディキャップのある子でした。その子どもたちはMuuと一緒に過ごす

うち、「ごっこ遊び」が苦手だった子がままごとをしたり、自分が習得したばかりの数字を教えたり、子どもどうしの会話がはずんだりする様子が見られたのです。これらは、大人や同世代の子どもとの関わりのなかでは見られない初めての反応でした。

3. コミュニケーションの力を引き出し、育む

この子どもたちにとってMuuは、自分とじっくり関わり、自分に合わせてコミュニケーションをしてくれ、対等につきあえる相手になったようです。こんなMuuと出会ったことで、子どもたちの潜在的な能力が引き出され、例えば「学んだことを相手に教える」という高度なコミュニケーションにもつながったのです。周囲の大人たちが、その子どもが持つ可能性に気づけたことも大きな成果でした。この実証結果の反響は大きく、今後は病院や家庭などでも「コミュニケーションロボット」が普及していくよう、研究が進められています。

4. おわりに

言語聴覚士の領域は、医学、心理学、言語学、音響学、工学、社会福祉学、その他の文系、理系の多彩な分野が融合しています。ロボットを研究することが人を知ることにつながるよう、コミュニケーションについて考えることは「人との関わり」「人との絆」を知ることにもつながります。ことばや人間に興味がある、人をもっと直接関わりたいというあなたにとって、言語聴覚士という分野もひとつの選択肢です。

健康教室 報告

期 間 :2011年5月10日～同年11月8日

回 数 :第1回～第7回(合計7回)

場 所 :河崎記念講堂、大阪河崎リハビリ
テーション大学(1号館3階大講
義室、多機能実習室)

世話人 :佐竹 勝(統括責任者)、上島 健
(統括副責任者)、嶋野 広一(責任
者)、武井麻喜(副責任者)、水野貴子、
石川健二、錢高広美、南川京子、竹
内秋彦

1. 第1回健康教室 実施報告

- 1) 実施日 :2011年5月10日(火)
- 2) 実施時間 :10:00～11:30
- 3) 天 候 :雨 気温27℃
- 4) 参加人数 :8名
- 5) ミニ講座 :補聴器のトラブルとその対策について
(担当 :三輪 レイ子 教授)
- 6) 主 活 動 :風船バレー

2. 第2回健康教室 実施報告

- 1) 実施日 :2011年6月7日(火)
- 2) 実施時間 :10:00～11:30
- 3) 天 候 :曇り 気温25℃
- 4) 参加人数 :9名
- 5) ミニ講座 :楽しいコミュニケーションで認知機能の低下予防について
(担当 :稲葉 敏樹 講師)
- 6) 主 活 動 :体力測定(握力、上体起こし、
長座位体前屈、開眼片足立ち、
10m障害物歩行)

3. 第3回健康教室 実施報告

- 1) 実施日 :2011年7月12日(火)

- 2) 実施時間 :10:00～11:30
- 3) 天 候 :晴れ 気温32℃
- 4) 参加人数 :7名
- 5) ミニ講座 :陶芸について
(担当 :嶋野 広一 助教)
- 6) 主 活 動 :陶芸(土練り、成形)

4. 第4回健康教室 実施報告

- 1) 実施日 :2011年10月11日(火)
- 2) 実施時間 :10:00～11:30
- 3) 天 候 :晴れ 気温24℃
- 4) 参加人数 :8名
- 5) 公開講座 :骨粗しょう症について
(担当 :亀田 浩司講師)
- 6) 主 活 動 :ボッチャ

5. 第5回健康教室 実施報告

- 1) 実施日 :2011年11月8日(火)
- 2) 実施時間 :10:00～11:40
- 3) 天 候 :晴れ 気温25℃
- 4) 参加人数 :11名
- 5) ミニ講座 :認知症と食事について
(担当 :寺井 麻由(水間病院管
理栄養士))
- 6) 主 活 動 :陶芸(釉薬がけ)

